

令和6年度

教職課程

自己点検・評価報告書

京都西山短期大学

目 次

I 教職課程の現況及び特色-----	1
II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価-----	2
基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み-----	2
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援-----	3
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム-----	4
III 総合評価-----	5
IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス-----	5
V 現況基礎データ-----	6

I 教職課程の現況及び特色

1. 現状

- (1) 大学名
学校法人京都西山学園 京都西山短期大学
- (2) 学科・コース名
共生社会学科 こども教育コース
- (3) 所在地
京都府長岡京市粟生西条 26
- (4) 学生数及び教員数 (令和6年5月1日現在)

【こども教育コース】

学生数： 教職課程履修者数 44名 (1回生16名、2回生28名)

教員数： 教職課程専任教員数 6名

2. 特色

本学は教育基本法並びに学校教育法に則り、高等普通教育の基礎の上に仏教学の教養に重きを置く大学教育を施すことを目的とし、仏教精神をふまえ、広く社会の福祉に貢献する人物の育成をめざすことを使命とする。(学則第1条)

また同第1条の2には、「本学の設置する各学科又は専攻における人材の養成に関する目的その他教育研究の目的については別に定める」と記し、共生社会学科における具体的な教育方針とディプロマ・ポリシーについては大学案内および学生便覧に、次のように明記している。

教育方針

こども教育コースの教育方針として、「他者に対し慈悲の心で接することのできる保育者の育成」を挙げているが、これは本学の建学の精神や理念に基づいたものである。保育技術の習得だけでなく、温かい大きな心で人に接することのできる保育者になってほしいと願っている。

ディプロマ・ポリシー

こども教育コースでは、本コースのカリキュラムを履修し、62単位の単位修得等の要件を満たし、次のような能力・資質を備えた人物に学位を授与する。

① (思考・判断)

建学の理念である温かい思いやりのある心を身につけ、ひとりひとりの子どもに寄り添う保育に必要な思考力と判断力とを身につけている。

② (知識・技能)

保育者として必要な汎用的な知識や、技能を取得している。

③ (人間性)

実社会で起こる様々な問題について、持続可能な発展、維持貢献できるような解決策を主体的に考え、行動することができる。

④（意欲・表現）

子どもや保護者等、さまざまな人々を尊重しながらコミュニケーションを図りつつ、具体的な保育を計画し、創造することができる。

こども教育コースは、保育養成機関として20年が経ち、今春、保育士資格・幼稚園教諭2種免許を取得した第19期の学生を社会に送り出している。2年間の学びにおいて、単なる知識や技術の習得に終わらせず、実践へと対応できるように努めている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

[現状説明]

京都西山短期大学では、「学仏大悲心」（仏の慈悲の心を学ぶこと）すなわち阿弥陀如来がすべての人々を慈悲で包み、必ず救うという願いを立てられて仏になられた由来を知り、人のよるこびを自らのよるこびとし、人の悲しみを自らの悲しみとして受け止め、自身の行動を通じて社会に貢献する人材の育成が本学の理念である。この理念に基づき卒業認定及び学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定めている。

育成を目指す教師像について全教員が共有し、こども教育コースの専任教員が分担して実習先への訪問を行い、実習先の要望の聞き取りや学生の指導を行い、訪問後の情報共有や次年度に向けての改善について話し合いをコース会議で行っている。

[長所・特色]

コース会議で専任教員間の情報を共有し、学生の指導にあたり、本学の目指すべき教師像の要請に向けて取り組んでおり、教科での指導や生活全般の支援を行って、目指すべき教師像の育成に努めている。

[取り組み上の課題]

本学の目指すべき教師像について、これまでの実績と時代に求められている教師像の整合性を図り、教員間で共有を常に図ることが課題である。

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

[現状説明]

京都西山短期大学では、十分な教員研究業績を有する教員と実務経験のある教員を厳選に配置し、学生相談、進路指導の充実を図っている。免許申請、単位取得状況等は主にゼミ担当教員が教学課と連携し、指導に生かしている。教職課程の質的向上のために、学生による授業評価アンケートの評価結果に対してコメントシートを提出して授業改善に役立てるとともに、授業改善のためにFD・SD研修を計画的に行っている。

各学年で担任制を敷き、春・秋学期に担任の教員が学生と面接を行い、授業理解、学業状

況、出欠確認、将来の進路等の聞き取りを行い、途中放棄等の学生が出ないように事前のチェックを行っている。

[長所・特色]

教職課程の担当者には、実務家教員と研究者教員がバランスよく配置され、それぞれの見識に立った意見交換ができています。

[取り組み上の課題]

授業評価アンケート結果に対するコメントシートの提出が不十分であるとともに、担当部署から結果の提供を迅速に受けられる仕組みも不十分である。それらの仕組みを改善した上で教職課程についてのFD・SDの取り組みにつなげることが必要である。

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

[現状説明]

教職課程で学ぶにふさわしい学生像、「入学者受け入れの方針」などを踏まえて、学生の募集や選考およびガイダンスなどを実施しているものの、昨今の教職離れの影響もあり、定員を充足していないのが現状である。また、京都府の離職者等再就職訓練事業【長期高度人材育成コース】委託業務により、社会人を受け入れてはいるが、定員充足には程遠い、

他者への「思いやりの心」を育成しつつ、各学問分野の専門的知識の習得によって得られる情報処理能力、情報編集能力、基礎的人間力の3つの力を総合的に身に付けることによって、「地域や社会で活躍できる人材」の育成を目標としている。

学生は、教職課程履修、教育実習、保育実習、ボランティア活動、地域の連携活動、行事への参加など保育職につながる活動を「履修カルテ」に記録することで、学生の適性や資質に応じた教職指導が行っている。

[長所・特色]

「履修カルテ」により、振り返りや自分の課題と向き合う機会となっており、学生は適性や資質課題などを確認することができる。

[取り組み上の課題]

学生確保に関しては、以前に対象機関となっていた「高等教育の修学支援新制度」の対象校として復活できるよう一定の要件を満たすことが課題である。

人材育成に関しては、「履修カルテ」により、学生は自らの教職課程履修を自己点検評価することができるが、評価の基準であるその項目の内容の見直しや教員のフィードバックのタイミングについて検討が必要である。

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[現状説明]

総合支援課の「キャリアサポーター」は1年後から始まる就職活動に向けたキャリアガイド

ンスの実施はもとより履歴書の書き方から面接練習やフォローアップなど総合的に就職活動をサポートしている。昨年度より、幼稚園、保育所、こども園以外に、学生の就職視野を広げるために、乙訓地域の施設と協力して説明会を開催したり、ブースを開いてもらい、質疑応答を通して施設理解にも努めている。

[長所・特色]

小規模な短期大学であるため、教員のみでなく事務職員と学生の距離が近く、学生のニーズを細かく受け止めて、キャリア支援が行える。全教職員が学生の顔と名前を一致し、常にその動向を確認することができる。

[取り組み上の課題]

免許種や就職先を絞ったセミナーの企画や 現職の幼稚園教諭（卒業生）、保育士（卒業生）などと学生が直接交流できる機会を増やし、教員を目指す後輩たちの意識向上に役立てることができるように、卒業生や地域の多様な人材などとの連携を図りたい。

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

[現状説明]

教職課程シラバスにおいて、各科目の学習内容や評価方法などを学生に明確にしている。教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

従来の「児童文化」を発展的に解消し、「あそび」に焦点を当てた「こどもあそび学入門」「こどもあそび学」を授業科目として導入している。子ども＝あそび＝学習の視点から、短期大学としては異例の1年半に渡る「あそび」を学生自身が楽しみ、修得し、その喜びを子どもたちに伝えることができる学生の育成を目的としたものである。あそびは15種類の多岐に渡り、学内の教員以外に斯界の第一線で活躍している講師陣を招いて、学生の要求水準の向上を計っている。また、客員教授にも童謡歌手、絵本作家を招聘し、音楽や絵本への意識向上に努めている。

ウクレレを西日本の大学に先駆け導入したのも、ピアノに加えて（苦手な人が多い）手軽に習得し、いつでもどこでも使用できる楽器を特技として持ち合わせてほしいと願っている。卒業生の中には、「マイ・ウクレレ」を購入し、新任で2月生まれの誕生日会に、パネルシアターとウクレレを披露したと聞いている。

[長所・特色]

その成果により、様々な遊びを通して成長する子どもたちのために、実務経験のある教員から生きた「あそび」を学ぶ事ができていると認識している。

[取り組み上の課題]

感染症等で、授業を休んだ時には、「こどもあそび学」は、実技指導が中心であるが故に、繰り返しがきかないため、二度と触れることができないので映像等に残すことにより、公欠者に対する補講に配慮する必要がある。

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

[現状・説明]

長岡京市の文化、自然環境を活かし、農園や寺院（本山）と協力し、文化や自然に目を向けることができる学生の育成に努めている。

地域には、幼稚園、保育所や小学校、特別支援学校がたくさん存在し、本山参拝の折、中庭で昼食を食べに来ることが多く、昼休みに積極的に学生との交流を深めている。また、小学生が本校で授業を受けたり、幼稚園、保育所、小学校、特別支援学校へ出向いて、保育・授業の一環を担ったりして、子どもたちとの積極的な交流を計り、実践力を養っている。

このように地域の保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校の行事、地域の活動などに参加する機会を設定している。

更に、ゼミの集大成として、研究成果を地域の幼稚園、保育所、特別支援学校、社会教育の場で発表している。

[長所・特色]

ボランティア活動、地域の子ども達との交流や地域の活動への参加を通して、子どもとふれあい、交流の持ち方を体験的に学ぶことにより、子どもへの理解を深め、実践的指導力の育成を図っている。特に、実習前の1年次の学生にとっては、様々な体験活動が実習へのスムーズな導入となっている。

[取り組み上の課題]

様々な体験活動に関する振り返りの機会を設定することが課題である。

また、土日にアルバイトに入る学生も多くいることで、全員参加が実現できないのも課題である。評判が良く、2月3月に入っても、地域からの要望があり、どのように答えていくかも課題となっている。

III 総合評価

本学の教職課程については、基準Ⅰ～Ⅲの観点において、取り組み上の課題は各々であるが、入学者の殆どが幼稚園免許を取得し、保育士資格を含めると殆どが専攻を活かして就労しているので、総合的には良好であると判断できる。今後も本学の長所・特色を維持しながら課題点を克服し、改善を重ねていく必要がある。

特に、学習成果の達成のために、シラバス、教職課程履修カルテ、個人面談シート等や実習記録、各授業での授業評価アンケートなど、教職員・学生が自己評価を行うことができる場面は多々ある。それぞれの意味付けはなされているが、学生にうまく伝える仕組みや自己評価を学習につなげるしくみが不十分であり、今後の課題である。また、教育実習を行う上で必要な履修要件の運用にも課題があり、見直し等を行う必要が多々ある。

ただ、この一年、各実習の途中放棄、免許資格を取得しない学生、休学する学生が数名出たことは、新たな課題としてあげられる。

また、学生確保の面では、効果的な取り組みができておらず、結果も出ていないので、早急に対応策を講じる必要がある。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

令和6年9月にこども教育コース会議及び教学委員会において、令和6年度の教職課程自己点検評価報告書の作成の内容等について情報共有し、報告書作成のスケジュールを確認し作成することとした。こども教育コースの各担当教員が原案を作成し取りまとめる予定であったが、令和5年度に集中経営指導法人に判断されてから、毎年、担当教員の入れ替えが生じている。そのため報告書作成と公開が遅れた。令和7年11月にこども教育コース会議において原案について修正を重ねて、最終調整を行い作成した。

V 現況基礎データ

I 現況基礎データ一覧

令和6年5月1日現在

学校法人 京都西山学園					
京都西山短期大学 こども教育コース					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員就職者数等					
①	昨年度卒業者数				22
②	①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)				19
③	①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)				17
④	②のうち、教職に就いた者の数(幼稚園教諭) (正規採用+臨時的任用の合計数)				16
	④のうち、正規採用者数				15
	④のうち、臨時的任用者数				1
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他()
教員数	4	0	3	0	0
相談員・支援員など専門職員数 2					